発達理論の学び舎

Back Number: Vol 151

Website:「発達理論の学び舎」

© YOHEI KATO 2018

目次

3001. 心をなだめる曲

3002. 課題発見と課題設定

3003. 曇った早朝の夢

3004. シュタイナー教育・モンテッソーリ教育・イエナプラン教育

3005. 食について

3006. 失敗を恐れる思考回路

3007. 月までの距離と食品の表示

3008. 現代に蔓延する自己を取り巻く社会への無関心

3009. 迫るGRE試験

3010. 創造と自由を促す制限

3011. テレマンの曲：GRE対策の追い込み

3012. 火曜日の朝に

3013. 権威に対する健全な批判精神を養う教育

3014. 尊敬する美容師の友人メルヴィン

3015.「兄貴の分まで生きるんだ」

3016. 憤怒と落胆の夢

3017. 明日のGRE試験に向けて

3018. アムステルダムに向かう列車から

3019. アムステルダムでの散歩を終えて

3020. GRE試験当日の朝に

© YOHEI KATO 2018

3001. 心をなだめる曲

早朝は晴天だった空も、今はすっかり雲に覆われてしまった。しかし、辺りは土曜日の落ち着いた雰囲気を放っている。

先ほど昼食を摂り終え、これから午後の活動に入っていく。街路樹の葉が午前中と同様に穏やかな風に揺られている。街路樹の葉を何気なく眺めていると、「あぁ、街路樹が紅葉し始めている」と思わず言葉が漏れた。フローニンゲンの八月中旬はもはや夏と呼ぶことはできず、気候としては秋に分類されるのではないかと思う。このところの涼しさを考えると、まさに今は初秋だと言ってもいいだろう。

午前中にGRE試験に向けた単語学習をしていたのだが、午前中はあまり気乗りがしなかった。どこか集中力を欠いたような学習が少しばかり続いていた。

昨夜は就寝前までパソコンの前に座り、今年一年間の居住許可の申請書を提出することに四苦八苦していたことが午前中の集中力に影響を与えていたのかもしれない。確かに昨夜もしっかりとした睡眠が取れたのだが、昨夜の遅くまでパソコンを眺めていたことが午前中の集中力の欠如を招いていたように思う。そうしたこともあり、あまり無理をせずに単語学習を進めていた。休み休みに単語を確認していき、これからまた残りの単語を確認していく。

単語学習の合間合間に作曲実践を挟んだことはとても効果的であったように思う。やはり一度活字から離れて創造活動に打ち込むことは良い切り替えになる。また、内側でもやもやしていたものを解消するような働きも午前中の作曲実践にはあったように思う。テレマンの曲に範を求めて作曲していた時、心を落ち着かせるような曲を自然と作っている自分がそこにいた。心をなだめるような曲を作っていると、本当に自分の心が落ち着いてくるから不思議だ。

早朝にはバッハの二声のコラールにも範を求めて作曲をした。69曲中の61番目の曲を参考にし、いよいよ残すところあと八曲ほどになった。残りの八曲を参考にしたら、四声のコラールを参考に曲を作っていくこともいいのだが、再度二声のコラールを一から参考にするというのも望ましい実践かもしれないと考えていた。それぐらいにバッハの二声のコラールから得られるものが多い。また、短い曲を作っていくことにより、自分の中に創造活動のリズムがもたらされることも忘れてはならない。

© YOHEI KATO 2018

そうしたことに加えて、完成した短い曲が自分にフィードバックを与え、そこに変容と治癒の作用が働いていることも見逃すことはできない。これからも引き続きバッハの二声のコラールを参考にしたいと思う。

短い曲を作ることに関しては、バルトークの『ミクロコスモス』を再び参考にし始めたいと思う。バッハのコラールの楽譜を購入するまでは、ずっとバルトークの『ミクロコスモス』を参考にしていた。バルトークの曲も独特な個性があり、彼の作品から学ぶことも実に多い。今日の午前中のように、自分の心身の状態が優れない時は無理をしないことが賢明であり、作曲実践やデッサンを行うことによって、創造活動が内包する固有の治癒作用の力を借りたいと思う。フローニンゲン：2018/8/18（土）13:32

3002. 課題発見と課題設定

時刻は午後七時半を迎えた。今日は少しばかり晴れる時間帯もあったが、基本的には一日を通して雲が多かった。今も空には灰色の雲が漂っている。

つい今しがた夕食を摂り終えた。今日も鮭を皮ごと全ていただき、その美味しさに舌鼓を打った。鮭を夕食に食べることが習慣になりつつある。

今日は夕方にモンテッソーリ教育について調べていた。ここのところシュタイナー教育に関する書籍を読み進め、大きな感銘を受けてきたが、オルタナティブ教育を代表するもう一つの教育手法であるモンテッソーリ教育についても調べてみたいという気持ちになった。何冊か目星の書籍を見つけ、今すぐにではないが、秋以降にそれらを購入したいと思う。今はとにかくシュタイナー教育に関する理解を深めていく。

私の中では、モンテッソーリ教育もシュタイナー教育もどちらも素晴らしい教育思想に裏打ちされており、大変興味深い教育実践がそこでなされていると思う。一方で、私が強く関心を示しているのは芸術教育と霊性教育であり、それらの観点からすると、シュタイナー教育の方が明示的に子供たちの芸術性や霊性を育んでいこうとするような意識があるように思う。また、シュタイナー教育に対してより共感をしているのは、シュタイナー教育が自然との触れ合いを大切にしていることである。私は自然神秘主義的な傾向があるため、シュタイナー教育が自然の中での学びを大切にしていることには大きな共感の念を持つ。いずれにせよ、どちらの教育方法も洞察に溢れており、両教育の思

想と教育実践についてより理解を深めていきたいと思う。今後はシュタイナースクールだけではなく、モンテッソーリスクールにも足を運んでみたいと思う。

今日はこれからバッハの四声のコラールに範を求めて一曲作る。今日はこれで合計四曲を作ったことになる。シュタイナー教育の探究に関してもそうだが、作曲実践をしながらつくづく思うのは、課題とは与えられるものではなく、自ら発見し、自ら作り出していくものなのだ、ということである。自分の性分として、課題を人から与えられることを昔から好まない傾向にあることも影響をしていると思うが、自らを真に育んでくれるのは、やはり自分の内側から湧き上がる課題なのだと思う。

ここではもちろんながら外的な刺激や他者の力をないがしろにしているわけではない。だが、外的な刺激や他者の力を借りるのは、あくまでも自らの課題意識を育むための助けとするに留め、自ら課題を設定していけるような力を養っていくことが最も重要であるように思う。

教師や親、そして指導者はどうしても自分の基準に照らし合わせて外から課題を子供たちに与えようとするが、それは真に子供たちの発達を支援していくことには繋がらないように思う。こうした傾向は子供に対してだけではなく、組織における人財育成にも見られることである。

固有性を持つ私たち一人一人を真に育んでいくのは、自らが発見した課題であり、自ら設定した課題であるという点を心に留め、今からの作曲実践を始めたい。この作曲実践の前に課題を設定し、実践後に新たな課題を得たいと思う。フローニンゲン：2018/8/18（土）19:43

3003. 曇った早朝の夢

今日は六時半前に起床し、いつもの通りヨガを行い、一日分のお茶を作ってから一日の活動を開始させた。時刻は午前七時を迎えつつあるが、空は雲に薄い覆われており、朝日を拝むことはできない。風は一切なく、街路樹の葉が静止している。ここ最近はフローニンゲンはめっきり涼しくなり、初秋の様相を呈している。紅葉を始めた街路樹の葉を眺めていると、その思いはより強くなる。

連日印象に残る夢を見ている。今朝方も夢を見ていた。夢の中で私は、プレハブ小屋のような建物の中でフットサルをしていた。一緒にフットサルをしていた顔ぶれを見てみると、全員私の友人だった。二チームに分けてフットサルをしていると、一つのチームは本格的なフットサルサークルであり、

もう一つはこれから本格的にフットサルを始めようとしているサークルであることがわかった。それは社会人のチームではなく、どうやら大学のサークルのようであった。私は形としては本格的なフットサルサークルのチームの方に所属していたが、その練習試合の中ではこれから本格的にフットサルを始めようとしているサークルの方に助っ人として参加していた。

試合が始まってしばらくすると、ゴールキーパーが投げたボールがプレハブ小屋の外に出てしまった。そのボールを取りに行くために、一人の友人がゴール裏のドアを大きく開けたところ、外の広大な世界が目に飛び込んできた。外にはさらに大きなフットサルコートがあり、そこでも試合がなされていた。私たちは自分たちの練習試合をそこで中断し、目の前で行なわれている試合を観戦し始めた。

そこで行なわれている試合は相当に本格的なものだった。私はしばらくその試合を見たのち、おもむろに歩き出し、大学の建物のような場所の中に入っていった。そこでは大学のサークルの勧誘が行われており、フットサルを含め、運動系のサークルのチラシをいくつか受け取った。しかし私はその時に、運動系ではなく文科系のサークルに入ろうと思った。だが目星のサークルは一切存在しておらず、まずは自分一人から活動ができるサークルを作ろうと思った。他の人が今後そのサークルに入ってくるかどうかは別として、とにかく自分が納得のいく活動に従事し続けたいと思った。

運動系のサークルだとそのスポーツが行われる場所まで行くのが億劫であり、夏などは移動の暑さが厄介であり、冬は冬で移動が厄介だと思った。そのため私は、作曲サークルを一人で立ち上げ、その活動を一人で進めていこうと思った。勧誘活動など一切せず、自分一人で作曲活動を絶えず継続させていこうという思いが芽生えていた。そのような思いが芽生えたところで夢から覚めた。

目を覚ました時の時刻は五時半であり、そこからもう少しだけ眠った。そこからの短い眠りの中でも別の夢を見ていたように思う。夢の世界から目覚めた後、足元を少しふらつかせながら洗面所に向かっている自分がいた。フローニンゲン:2018/8/19(日)07:10

3004. シュタイナー教育・モンテッソーリ教育・イエナプラン教育

天気予報を確認すると、今日は一日中曇りのようだ。ただし、不気味な雨雲が空を覆っているわけではなく、太陽の光がなんとか地上に届きそうなぐらいの薄い雲が空を覆っている。

一日の活動に弾みをつけるため、今日はベートーヴェンのピアノ協奏曲を早朝から聞いている。おそらく今日は一日中、ベートーヴェンのピアノ協奏曲を聴くことになるだろう。

ここ数日間、自分の中では珍しい行動を取った。私は普段、よほどの用事がない限り、基本的にはこちらから友人に連絡をすることはないのだが、ここ二、三日の間に何人かの友人にメールを送った。もしかすると先週に、ジョン・エフ・ケネディ大学で一緒に学んでいた友人の方からのメールやグルジア人のラーナからメールをもらったことに影響されているかもしれない。今回メールを送った三人の友人はそれぞれ別々の仕事をしているが、教育について関心を持っているという点では共通している。

一人の友人は、偶然にもこの八月からドイツからオランダに引っ越してきたようだった。途切れることのない友人関係が自分の世界の中に存在していること。それを確認できた時、なぜだか心が温かくなった。仮に友人と何年も連絡を取っていなくても、本当の友人関係は途切れることなく存在し続けるものなのだと知る。

ここ最近シュタイナー教育について探究を始め、昨日もあれこれと色々なことを考えていた。シュタイナー教育に加えて、私がもう一つ関心を持っているのはモンテッソーリ教育である。もちろんオランダにいるという都合上、イエナプラン教育についても関心を持っている。それら三つの教育方法についてはこれからより詳しく学んでいく必要があるが、これまで得た知識の限りでは後者二つは同じ分類に括ることができるように思う。

当然、両者に横たわる教育思想や細かな教育実践は異なれど、両者は同一の分類に括ることができそうだ。どのような分類かというと、それは発達理論の観点に基づいた分類である。現時点ではそうした分類は、それらの教育方法の全体像を比較する際の参考程度にとどめ、ここからそれらの教育方法の詳細を学んでいくことによってその分類を見直していきたいと思う。

昨日改めて考えていたのは、それらの教育方法において親はどこまで学校と連携することができるのか、という点だった。学びを学校の中だけで完結させるのではなく、家庭と学校を有機的につなげることによって、どちらの環境における学びも相互作用することが理想だろう。そうした理想を実現させていく際に、親と学校の連携は重要であり、一つの学びの共同体として両者の協働はそれ

© YOHEI KATO 2018

ぞれの教育方法においてどれだけ密なものがなされているのかに関心を持った。どうやらシュタイナー教育においては、その創始者のルドルフ・シュタイナーの共同体意識の影響もあり、親が積極的に学校の行事や学校運営に関与しているようである。

そのあたりについては、モンテッソーリ教育やイエナプラン教育ではどうなっているのだろうか。単に教師からその日の子供の様子を聞くことや、学期を通じた子供の成長のフィードバックを得るのではなく、学校の運営そのものにどれだけ親が関与する余地があるのかが気になる点だ。

そうした余地がない学校は閉じられた系としての学びの空間であり、そうした余地が多分にある学校は開かれた系としての学びの空間を生み出し得る土壌を持っていると言えるかもしれない。今の私はシュタイナー教育に傾倒しているが、冷静な目を持ってできるだけ幅広くその他の教育方法についても調べてみようと思う。フローニンゲン:2018/8/19(日)07:35

No.1242: Endful Endless Days

I'm looking at a dark night, listening to a piece of music that I composed. I have a strong feeling that today is really approaching the end. I die and revive everyday; literally everyday to the actual end. Groningen, 21:00, Wednesday, 9/19/2018

3005. 食について

たった今、今日一日分のコーヒーを作った。ここ最近はコーヒーは一日に二杯しか飲んでいない。午前中に一杯、午後に一杯飲むだけとなった。

今ではすっかりと手荒れも治り、ほぼ完治した状態になっている。今年の初旬から夏の終わりまでずっと手が荒れていたことはとても面倒であり、煩わしさを絶えず感じていたため、今完治が間近に迫っていることを嬉しく思う。とにかく手に刺激を与えすぎないことと保湿を意識したら、確実に手荒れが回復の方向に向かっていった。以前、コーヒーと手荒れの関係性について仮説のようなものを書いたが、コーヒーを含めて、日々摂取する食べ物と手荒れとの因果関係を立証することは難しいと感じている。

確かに今年の冬から夏にかけては一日に多くのコーヒーを摂取していたが、それは今年だけではなく、昔にもそういう時期があり、その時には手など荒れていなかった。食べ物が肌に与える影響は間違いなく存在しているだろうが、末端の手先だけに影響を与えるものが存在しているのかどうかは疑わしい。食べ物は肌全体の質に影響を与えるというのなら比較的正しそうに思えるが、手先にだけ影響を与える食べ物が存在しているのかどうかは今後も調査や検証をしてみる必要があるだろう。

これは米国にいた時からの習慣だが、基本的に体に摂取するものに関してはオーガニックなものだけにしている。ある食材においてどうしてもオーガニックなものがなければ仕方なくオーガニックではないものを選ぶことがあるが、できるだけオーガニックなものを食べるようにしてから六年ほどになるだろうか。オランダの今の生活でもそれは続いている。オランダのスーパーで、例えば肉類を購入するときは、家畜に与える餌に化学物質が含まれているかどうかなどがオーガニックの基準になるのだろうが、海産物についてはどうなのだろうか。

海産物のコーナーに行くと、オーガニックであるという表示がなされているものを見かけない。基本的に自然の海で採れたものは全てオーガニックであるという認識なのだろうか。その辺りの基準がまだ不明確だ。

ここ最近は、毎日鮭を食べている。弁当に入っているような小さな鮭ではなく、身がしっかりとついているボリュームのある鮭を食べている。この鮭がどの海で採れたものであり、海産物のオーガニックの基準などについても調べてみようと思う。

書斎の窓から外を眺めると、カモメが空を何度も旋回している姿が目に入った。しばらく旋回をしたのち、カモメはどこかに飛び去った。今は視界に誰もいない。

そういえば昨日、一羽のスズメが挨拶にやってきた。書斎の窓ガラスをコツコツと叩き、部屋の中にいる私の姿を伺っているかのようだった。窓ガラスをコツコツと叩く様子はとても愛らしく、しばらくその様子を観察していた。そっとそばに近寄ってみようとすると、スズメは逃げてしまった。スズメが逃げてしまったことは少しばかり残念だったが、またやって来てくれるだろう。今日はやって来てくれるだろうか。フローニンゲン：2018/8/19（日）07:58

© YOHEI KATO 2018

No.1243: Autumn Scenery in Japan

Although it was cloudy in the early morning, it begins to be sunny. I'm recollecting the beautiful scenery in autumn in Japan. Groningen, 09:01, Thursday, 9/20/2018

3006. 失敗を恐れる思考回路

時刻は午後の三時を過ぎた。日曜日が静かに進行していく。

今日は午前と午後を合わせて今のところ二曲ほど作曲をした。以前の日記で言及していたように、不協和音をいかに組み込んでいくかに関して小さな実験を少しずつ始めている。当然その試みは上手くいかないことの方が多いが、こうした試行錯誤は技術の涵養に不可欠である。とにかく失敗に次ぐ失敗を経験するための実験を多く行っていく。

積極的に失敗をすることは学習において不可欠であろう。そのようなことを考えていると、我が国においては失敗の仕方に関する教育がなされていないのではないかという問題意識を持った。

どうも多くの人の中には失敗を恐れる思考回路が形成されてしまっているようであり、失敗を積極的に行うための実験に乗り出す意思が涵養されていないのではないかと思われる。あるいは、そもそも本来失敗と呼べないようなことでさえ失敗とみなしてしまうような固定観念が多くの人に染み付いていることは大変気がかりである。

正直なところ、人生において失敗と呼べるものを見つけることは難しい。どれほど難しいかというと、自分の使命や天職を見つけるぐらい難しいのではないかと思う。

多くの人が失敗だと見なしていることは本質的には失敗ではないものばかりである。それは一時的——あるいは瞬間的——に上手くいかないだけの事柄であって、そうであるにもかかわらず、それに尻込みをしてしまいがちである。完璧に思えるコンピューターでさえバグがあるのであるから、私たち人間がなすことが完璧ではないことなど当たり前すぎることのように思えるのだが。小さなバグが見つかればそれを修正していけばいいだけの話であり、何かに挑戦して上手くいかなければ、思考を巡らせて次の挑戦の時に上手くいくようにすればいい。あるいは上手くいくのは次の次、さらにその次でも十分だ。

私は毎日失敗の連続から少しずつ学びを得ている。それは作曲においてもそうであるし、その他の探究活動においてもそうだ。自分の身になるような知識というのは、最初は誤解から始まることが多い。自分の誤解が最初にあって、それと対立するような知識項目があり、自らの誤解とその知識項目の双方と向き合うことによって、徐々に自分の誤解が修正されていくという経験を日々している。

最初は常にわからないことだらけであり、何をするにも、何を学ぼうにも、基本的には失敗と誤解しかない。そうした前提に立って、絶えず新たな試みに乗り出していきながら日々の学びを深めている。

我が国の教育においては、失敗の仕方に関する教育がなされていないことはもちろんのこと、それよりも事態は深刻であり、失敗を恐れる思考回路が無意識のうちに構築されてしまう仕組みになっていることではないかと思う。そうした教育を受けてきたことによって、多くの人は新たな試みに乗り出していかないか、それとは真逆に無茶なことに乗り出していく。自らが失敗と思っていることが実は失敗ではないという自己矯正的な気づきを育み、常に新たな実験と検証に乗り出していけるような思考回路を育んでいくことが大事だと思う。異国の地で生活を営んでいると、そうした思考態度がどれほど重要かがわかる。フローニンゲン：2018/8/19（日）15:38

No.1244: Today's Music Composition

I'll compose music based on Mozart's work from now. I wish the new piece of music will make me feel light and cheerful. Groningen, 09:13, Thursday, 9/20/2018

3007. 月までの距離と食品の表示

つい今しがた、失敗についての日記を書き留めていた。それは当初書く予定の事柄では全くなかったが、なぜだかその点について気になったので筆が進むまでに書き留めた。

早朝からの曇り空は依然として変わらないのだが、午前中には少しばかり水色の空も顔を覗かせ始めた。その空を眺めていると、穏やかな海をただただ眺めたいような気分になった。

今はまた薄い灰色の雲が空全体を覆っている。何かが終わりに近づいており、また何かが始まろうとしているような雰囲気を持つ空だ。そのようなことを思っていると、一日の中に祭りの最中のような

瞬間があり、祭りの終わりのような瞬間があるという考えが芽生える。祭りの根源はどこか超越的な世界にあるようだということを午前中に考えていた。

夏が終わりに向かい、これから秋が始まろうとしてる。秋が始まることによって誕生する生命もあれば、消えていく生命もあるだろう。絶え間ない生滅を繰り返すこの世界を前にすると、自ずから静かな気持ちになる。

昨夜は就寝前に何気なく夜空の月を眺めていた。ふと、月までの距離はどのようにすれば測れるのかに関心を持った。すぐにその方法を思いつくことは難しかったが、三角形や円の性質をうまく組み合わせて活用すればなんとか測定ができるのではないかと考えた。おそらくそれらの組み合わせと相似を活用すれば、自宅から(もしくは地球から)月までの距離がなんとか測定できそうだと感じた。だが、仮に相似比がわかったとしても、何を基準にその比を当てはめたらいいのかがすぐにはわからなかった。

昨夜は半月であり、半月をぼんやり眺めていると、思わず笑いが込み上げてきた。一体どこの誰があんなに遠くに浮かぶ月に行ってみたいと思ったのか、その発想の面白さに思わず笑ってしまった。そしてその一見馬鹿げた発想が本当に実現し、人類は月に降り立ったことを思うと、再び静かな気持ちになった。この世界には自分がよくわからないものが無数に存在しており、馬鹿げていると思った発想がいつの間にか現実のものになっていることがある。それはとても驚くべきことである。

午前中に自分が食べている鮭について気になり、少しばかり調べていた。鮭のパックに付されれているマークについて以前から気になっており、今日はそれについて調べてみた。英語表記ではなく、オランダ語で表記されているため、これまでは気になっていながらも、調べてみようという気にはならなかった。しかし今日は一度それを調べてみようという気になったので、実際に調べてみると、どうやらスーパーで購入している鮭は天然ものではなく、養殖ものらしいことがわかった。

パックに付されているマークは、「ASC認証」と呼ばれるもので、これは責任ある養殖を行っていることの認証らしい。さらに調査を進めてみると、その他にも「MSC認証」というものがあり、こちらは管理された持続可能な漁業で獲られた天然の海産物を認定するものだそうだ。

© YOHEI KATO 2018

近所のスーパーの海産物をくまなく見たわけではないのではっきりとしたことは言えないが、MSC認証のものはあまり売られていないのではないかと思う。どのような海産物にMSC認証がなされているかを次回の買い物の際に確認したい。

本当に食は私たちの心身に大きな影響を与えるため、毎日何を食べているかは極めて重要である。TPPの批准によって、日本の食が危機に直面する可能性があることを最近知り、それはとても危惧する点である。無知であることは自らの生命を脅かし得るということを肝に銘じる必要があると改めて思う。フローニンゲン：2018/8/19（日）15:56

No.1245: A Peaceful Day

Today is peaceful as usual. I'll go for a walk after lunch. Groningen, 09:50, Thursday, 9/20/2018

3008. 現代に蔓延する自己を取り巻く社会への無関心

日曜日が静かに終わりに向かっていく。時刻は午後七時半を迎えた。つい先ほど夕食を摂り終え、これから就寝に向けた活動に取り掛かる。

夕食を摂りながら、ぼんやりと雑多なことを考えていた。私が日本を離れている間にTPPに関する取り決めが生まれ、今でもその取り決めに関して色々と論争が起こっていることをここ最近改めて知った。今でも覚えているが、最初にTPPの名前に触れた時、そこに潜む個別具体的な諸々の問題に私は全く気づかないような状況であった。改めてその取り決めの具体的な内容を眺め、それらが各産業に及ぼす影響などを考慮に入れると、TPPというのは日本にとって大きな危険性を持った取り決めなのだということが素人にもわかってくる。

私はTPPについての専門家ではないため、多くの点を見落としているだろうが、自分なりに色々と調べていると、それが持つ問題の方が便益よりも大きいように思えて仕方ない。今、日本の国民はTPPについてどのような考えを持っているのだろうか。そうした問いについて考えていると、もしかしたら日本国民は全くの無関心である可能性がある、という考えが浮かんだ。正直なところ、TPPの問題が顕現化したら、自らの生命の危機が脅かされるような事態につながっていく可能性が十分あるにもかかわらず、無知でいられるというのはどういうわけか考えていた。

国民は無関心であるというよりも、巧妙に無関心の状態に貶められてしまっているか、さらにはTPPがさも国民にとって便益のあるものであるという虚飾の情報にがんじがらめにされてしまっている可能性もある。そこからさらに、こうした国民を思考停止状態にする根源はなんなのかについて考えていた。

これは発達理論の観点からすれば、なぜ多くの人は高度な認識の枠組みを獲得することができないか、という問題とも密接に関係しているように思える。その根源に関しては様々なものが考えられるが、一つには情報操作と情報隠蔽という古典的なものが挙げられるだろう。だが、これはほぼ周知の事実になっているにもかかわらず、それでも国民が情報を疑い、検証する態度を見せないのは何故なのかについて考えていた。そこには現代の病のようなものが見えてくる。

仮に情報が操作され、隠蔽されていることを知った場合、本来であれば、自らで情報を集め、それを検証していくということが起こりうるはずであるが、そもそも広く世に報道された情報を純朴に信じるというのは、この現代社会における標準化・平準化の風潮と関係しているように思えてくる。そこでは、当たり障りのない画一化された情報が世に投げかけられ、多くの人は標準化と平準化に飼い慣らされているがゆえに、そうした情報を純粋に受け取る。そこから先、自らその情報を検証していくというようなたくましい知性が発揮されることはなく、そこでは純朴に与えられた情報を信じるという行為だけしかなされない。

多くの人の知性が継続的に育まれていかないというのは、標準化・平準化による差異の喪失が関係しているように思う。発達の根幹原理には、反復と差異という二つの異なる性質があり、私たちは絶えず自己の同一性を維持しながらも、t+1時点の自分はt時点の自分とは異なるという差異を持つ。本来、健全な発達は、この反復と差異の双方の働きによってなされていく。だが、この現代社会においては、様々な点において標準化・平準化の力が働いており、私たちは自己の内側に差異を健全に育んでいくことができなくなりつつあるのではないか、と私は危惧している。

そうした状態が悪化の傾向に向かっているがゆえに、集合的な規模で知性が育まれていかない状態を生み出しているのではないかと思う。上記の操作された情報に対して自ら検証をしていく際に、知識を獲得していくことは有益だが、それは情報を自発的に検証しようとする態度がそもそもなければ話にならない。

自己及び自己を取り巻く世界に対して関心の目を向け、それを自らの感性と知性を持って検証していくという態度は、それを突き詰めて考えていけば、やはり幼少期の頃の教育に行き着くのではないかと最近よく思う。それこそ、シュタイナー教育における魂の形成期において、いかに自己と自己を取り巻く世界と向き合ってきたかということが、将来成人になった時に、自分を取り巻く社会の諸々の問題に対して健全に関心を示すことを促すのではないかと思う。

夕食を摂りながら、そのようなことをずっと考えていた。我が国だけではないだろうが、多くの成人が示す自己を取り巻く世界への無関心という現状は、次の世代の知性を健全に育んでいくことによってその負の連鎖を断ち切ることができるのではないかと思う。少しずつだが教育の重要性が自分なりに見えてきた。フローニンゲン:2018/8/19(日)19:54

No.1246:Autumn Afternoon

It repeats a clear and cloudy weather today. After lunch, I went to the university, and I received a diploma for my third master's degree. Groningen, 15:37, Thursday, 9/20/2018

3009. 迫るGRE試験

新たな週がやってきた。充実した週末が終わり、今日から新たな週が始まった。天気予報を確認すると、今日も一日中曇りのようだ。実際に今も空が薄い雲に覆われている。明日と明後日は晴れるようなのだが、そこからは数日間ほど雨が降り、気温もぐっと低くなる。秋はすぐそこまで近づいている。

今週の木曜日にはGRE試験を受ける。会場はアムステルダムであり、そこはアムステルダムの中央駅の近くにあるわけではなく、南の方の別の駅の近くにあり、アクセスを考えると前日にアムステルダムに宿泊をしておいた方がいいと判断した。途中で中距離バスに乗らなければならない点と、何度か乗り換えをしなければならず、フローニンゲンから会場の最寄り駅までは三時間ほどかかり、試験開始が午前九時であるため、前日からの宿泊が懸命に思われた。そのため、水曜日の午後に自宅を出発し、その日は会場近くのホテルに宿泊する。

いよいよ試験がやってくる。確かに今回の試験は、来年に米国の大学院に進学する際に大切となるものなのだが、そうした進学目的のみならず、この四年間の自分の学術英語の進展度合いを測定するという目的もある。大学院に進学するという目的しか持っていないと、GREのように時間に追われる試験では過度なプレッシャーを感じてしまうだろう。今回の試験はとにかく、この四年間の歩みを確認するという意図を強く持って受験をしたいと思う。

試験に向けて随分と形式慣れが進んでいる。時間に追われる読解セクションも、問題を解き切ることができないという状況からは脱却し、制限時間内に問題を全て解き終わることができている。本番においては、必ず難易度の高い問題が出題され、そうした問題で長考していると、他の問題に使える時間があっという間になくなってしまう。自分が長考をし始めたなと思ったら、その問題は捨て問だと思って、ある程度考えた解答を選んで次の問題に移ることが懸命だ。

もし全ての問題を解き終わってまだ時間が余っていたら、そうした長考を要する問題に戻って来ればいい。実際のGREの試験では、スクリーン上に各問いに対して印をつけることができ、後でその問題に戻ってくることができる。そうした機能をうまく活用していきたい。

何も焦って問題文を読む必要はなく、落ち着いて問題文を読んだ後に問いが難しく感じられたら、それは難易度が高い問題だと思って間違い無いだろう。問題文の読み間違えが無いように丁寧に読み、それでも問いが難しく感じたら、さっさと次の問題に移っていくという方針で解答をしていく。

今日と明日は特にGRE試験の対策に十分な時間を使いたいと思う。今日は単語集の九周目を行う。今回はもう一度最初から最後まで、すでに習得したと思われる単語を含めて3861個の単語を全て確認していく。もしかしたら今日はその半分しか確認することができないかもしれないため、明日にまたがってもよしとする。

午前中に、対策問題集を活用して、読解セクションと数学セクションの過去に間違えた問題を復習する。読解セクションについてはすでに数日前に復習が終了しているが、再度ここで復習をする。数学に関してはあと1セット分の復習が残っているため、それを今日中に終わらせる。

午後に入ってから、今日もコンピューター上でライティングの問題を二つ解く。本番では30分かけて解答するライティングの問いが二問出題される。各々の問いは独立しており、各問題で要求される

ものが異なる。今日もそれらについて実際に文章を書いていくが、文章を全て書くのではなく、重要なのは最初の五分までのアイデア出しのところであるため、問いを見て、解答スクリーン上にアイデアを書き出していき、そこからアイデアごとのつながりを考えながら、文章の出だしを書いていく。そのようなことを昨日に引き続き、今日と明日に行う。明日はまたコンピューター上で読解のセクションと数学のセクションを本番と同様の環境で1セットほど解いておきたいと思う。GRE試験が終わると北欧旅行が待っており、それを考えると学習にも熱が入る。フローニンゲン:2018/8/20(月)07:51

3010. 創造と自由を促す制限

今日と明日はGRE試験の対策に十分な時間を充てながらも、作曲実践を学習の合間合間に挟んでいきたいと思う。作曲実践を始める前は、気分転換に行っていたのは他の分野の読書であったが、学習の合間に別の学習を入れるよりも、創造活動に従事した方が気分転換になるのは言うまでもない。

作曲実践、さらには作った曲に対して内的感覚をデッサンする実践が加わったことを本当に有り難く思う。それらの実践のおかげでどれだけ日々の生活が彩り豊かなものになったことか。また、どれほど日々の生活に充実感をもたらしてくれていることか。今日も作曲実践をいつもと変わらずに行っていく。

一昨日にふと、創造活動においてあえて制限を設けることの重要さについて考えていた。多くの人は何もないところから自由に何かを表現することが創造的だと見なしがちだが、果たしてそうなのかを考えていた。確かに、全くの無から有を突如として創造することができたらそれは創造的だろう。しかし、そのハードルは思っている以上に高い。また、そうした創造性の発揮の仕方の問題は継続性がないという点だろう。

絶えず創造的なものを生み出し続けていくためには、それを支えるための枠組みのようなものが必要なのではないかと考えていた。そうした枠組みのことを私は「制限」と呼んでいる。自分が日々どのような制限を作曲実践に設けているかというと、それはまずもって短い曲を作るという分量の制限が挙げられる。今の自分は自らの作曲語法を持たず、まだ自分の内側の感覚だけに基づいて曲を

作ることができないと嘆くことがあったが、一昨日に気付いた重要な点は、過去の作曲家の曲を参考にするということそのものが良い制限（創造的な制限）になっているということであった。

過去の作曲家の曲が型として目の前にあり、それを参照しながら自分の創造性を発揮していくということが現在はうまく行われている。自由に曲を作れと言われても今の段階では非常に難しいのだが、過去の作曲家の曲を参照しながら自由に曲を作れと言われるとそれは日々行っていることだから容易である。

こうしたある制限の中における作曲実践もまた自由な作曲の一つの形態なのかもしれないと思った。今後も過去の作曲家の曲を枠組みとして活用しながら、分量の制限も引き続き設けていきながら、今後は少しずつそうした枠組みを変えていき、新たな枠組みを自ら設けていきたいと思う。

壊された枠組みと新たな枠組みが相まって、自分の作曲語法が確立されていくのだと思う。そして、そうした作曲語法そのものが、まさに自分の創造活動を制限するものでありながらも、同時に自由な創造を促すものであるに違いない。

創造活動というものがその人間の成熟と共に進化をしていくものであるならば、それは自らに課す制限が変容していくことを暗に示しており、今後は少しずつ自分に課している制限が一体何であり、どの制限が必要で不要なのか、どの制限をどのように変えていくとさらに創造活動が促進されていくのかを考えていきたいと思う。

制限があることの有り難さを改めて感じる。制限は創造と自由を促す大切なものだったのだ。フローニンゲン：2018/8/20（月）08:08

No.1247: A Dark Night Ceremony

A dark night ended, and a new day began. What is going on inside us during a dreamless sleep? It looks like a dark night ceremony which is esoteric, but there are some ways to know what is happening in the ceremony. Groningen, 07:59, Friday, 9/21/2018

3011. テレマンの曲：GRE対策の追い込み

時刻は午後の五時半を迎えた。新たな週の初めの月曜日も、着実に終わりに向かっている。今日の大半は曇りであり、朝には小雨が降っていた。一方で午後からは太陽が顔を覗かせる瞬間もあった。今は再び辺りが陰っており、肌寒さを感じさせるような光景が広がっている。

今日はこれまでのところ、二曲ほど曲を作った。一曲はバッハに範を求め、もう一曲はテレマンに範を求めた。天気が晴れていようが曇っていようが、心の世界がどのような天候を見せようが、自分にできることはライフワークを少しずつ積み重ねていくだけである。テレマンの曲を参考にしてみた時、いつもと同じように、テレマンの独特のメロディーに響くものがあった。未だこの感覚をうまく説明できないでいる。

テレマンのメロディーに共鳴するものがあり、そこには好奇心を刺激するような驚きもある。テレマンは実に不思議な作曲家だとつくづく思う。彼の曲に秘められた謎の解明に向けて、明日もまたテレマンの曲を参考にしたいと思う。

午前中に、過去に作った曲を再度聴いている時、突然目の前に扉が現れて、それを開けるとこれまで見たことのないような舞踏会が行われているイメージが喚起された。そして舞踏会の出口から外に出てしばらくすると、また別の扉が現れて、その向こうでは新たな舞踏会が行われている。

人生は開く扉、閉まる扉、そして舞踏会の連続のように思えてくる。この不思議なイメージが伴った曲を生み出した自分について考えを巡らせている。

ある内的イメージに呼応する曲が生まれているという事実。自分の思想や内的感覚と合致するような固有の曲が確かにそこに存在しているということは大変興味深い。この曲はテレマンの曲を参考にしながら作ったものであり、テレマンの曲は私の内側の何かを刺激するような力を内包しているようだ。

今日は作曲実践に並行して、GRE試験の対策に十分な時間をかけた。確かに、特に読解セクションの対策のために単語を覚えていくことは試験の範疇を超えて、今後英語の文章を読み書きする際に非常に有益である。一方で、こうした試験のための勉強を長く続けていられないという思いがあ

ることも確かだ。今回一ヶ月ほどの時間を試験に向けた学習に充ててきたが、それで十分だったように思う。それより少なくても多くても問題だったと思う。

ちょうど一ヶ月の区切りを設けることによって学習がうまく進んだ。木曜日の試験までGREの対策を進め、試験が終わった午後からは再び自分の探究活動と創造活動に励むことができる。その解放感は大きいだろう。

シュタイナー教育や美学、そして諸々の読みたい詩集が机の上に山積みになっている。試験が終わってから数日後には北欧旅行に出かけるが、旅行から帰ってきた後にそれらの書物を思う存分読めることが今からとても楽しみだ。

探究活動と創造活動を旺盛に進めるためにも、GRE試験対策を抜かりなく行いたい。今日はこれから夕食までの時間に単語集の確認を進めていき、夕食後にライティングセクションの問題をコンピューター上で解答する。その後作曲実践を挟み、時間が余っていれば単語学習をまた少し進めたいと思う。フローニンゲン：2018/8/20（月）17:38

No.1248: A Day in Autumn

Autumn arrived, and I'm remembering the last summer. A throng of rainclouds are talking to me about something. Groningen, 08:12, Friday, 9/21/2018

3012. 火曜日の朝に

今朝は六時半に起床し、七時を迎えたあたりから一日の活動を開始した。今、小鳥たちが鳴き声を上げているのが聞こえる。辺りはとても穏やかで、まだ人が活発に動き出していない。とても落ち着いた朝だ。

空を眺めると、遠くの空は青空であり、手前の空には灰色の雲がかかっている。確かに今は雲がかかっているが、今日はこれからどんどんと晴れてくるらしい。気温に関しても24度まで上がるらしいので、午後に散髪に行く時は程よい温かさの中を散歩できるだろう。

GRE試験の本番が近づいてきた。試験は明後日にある。

今日は昨日に引き続き、単語の最終確認をまず行いたい。単語集に掲載されている3861個の単語を最初から一つずつ確認していくことは骨が折れる作業であるが、その分収穫も多い。これまでどうしても覚えられなかった単語が今になってようやく覚えることができているものも見つかり、未だ覚えていない単語も洗い出すことができた。また、単語学習の初期において覚えていたと思っていた単語の意味がぽっかりと抜け落ちてしまっているものなども発見することができた。

今日はまず最初に残りの50ページの単語を確認していく。単語学習に一区切りがついたところで作曲実践を挟み、そこから再びGRE対策に戻る。その際には、ETSのウェブサイトから、本番と同様の形式であるコンピューター上で読解と数学のセクションの問題を1セットずつ解いておきたい。特に点数を気にする必要はなく、制限時間以内に解くことだけを念頭において形式慣れのために解いておく。これまでの学習のおかげで、どちらのセクションも随分と形式に慣れた。

午後からは再び単語学習を行うか、ETS出版の公式問題集の復習を進めていく。すでに数学のセクションの復習は終わっているため、今は読解のセクションを繰り返し復習している。

明後日のGRE試験の前日は試験会場近くのホテルに宿泊することになっており、明日は午後からホテルに向かいたいと思う。その際にこの公式問題集は分厚いがそれを持っていくかもしれない。

単語集に関しては明日の午前中にもう一度未習得の単語を確認することに留め、ホテルには持っていかないと判断する可能性が高い。一方対策問題集に関しても、明日の午後までに十分な対策が済んでいたらわざわざ持っていく必要はない。宿泊先のホテルでは、コンピューター上で問題を解く訓練を最終調整として行うことができるのだから、その点を考慮して問題集を持参するか否かを判断したい。明後日の午後にはGRE試験と向き合うことから解放され、再び自分の探究活動と創造活動に打ち込む日々が始まる。今からその時が待ち遠しく思える。フローニンゲン：2018/8/21（火）07:24

No.1249: Skips of a Little Bird

Although it is raining right now, when it becomes sunny again, a little bird would start to skip around a place. Looking forward to it, I'll begin my work.

3013. 権威に対する健全な批判精神を養う教育

ちょうど今、GRE試験に向けた単語学習に一区切りがついた。これから休憩がてら、過去に作った曲を編集し、バッハのコラールに範を求めて一曲作ろうと思う。

昨夜ふと、シュタイナー教育における権威との向き合い方に関する教育の重要性について考えていた。シュタイナー教育では、思春期を迎えたあたりで権威との向き合い方に関する教育がなされることを知った。それは明示的になされるというよりも、シュタイナーの教育思想をもとにして暗示的になされるようなものだと思う。つまり、権威である教師がわざわざ権威との向き合い方をレクチャーするようなものでは決してなく、ただし、教師は子どもたちが権威とどのように付き合っていったら良いのかを身を持って学ぶ手助けをしていく。そのような教育実践がシュタイナー教育ではなされているようだ。これはとても重要なことなのではないかと考えていた。

日本だけではないだろうが、我が国においては権威的なものにすぐに取り込まれてしまう人が多すぎるのではないかと思う。権威に対してあまりに従順過ぎる傾向が依然として強く見られる。

先日の日記で書き留めていたように、TPPの問題に関してもまさにそうだろう。健全な批判精神を持って権威を疑い、自ら情報を集めて自ら思考していく。そうした基本的な事柄が教育されておらず、権威を盲目的に信じる傾向があるのは危険ではないだろうか。

そのようなことを考えていると、根本的に権威を疑う批判精神が涵養されないまま成人を迎えてしまったことに大きな問題があるように思えてくる。権威と初めて対峙するのはまさに思春期の頃であり、その時期にいかに権威と向き合っていくのかを身を持って学んでいくことが必要になるだろう。

権威と単純にぶつかるわけでもなく、権威に従順になるわけでもなく、権威と健全に付き合っていく方法を心身を通して学んでいく必要があるのではないだろうか。そうでなければ、現代の多くの大人のように、いつまでも権威に従い続け、自らの知性を涵養できないままになるだろう。

シュタイナー教育に関する書籍を読めば読むほど、そして身近にいるシュタイナー教育を受けてきた友人の話を聞けば聞くほどに、様々な観点からシュタイナー教育を探究していきたいと思うようになっている。権威に関するテーマもそうであるし、評価に関するテーマもそうである。そしてその他に

重要なものとして、芸術性と霊性の涵養に関するテーマもある。これまで学んできたことが徐々につながっていきながら、さらに新たなことを学んでいく必要があることを実感している。これまでの学びを総合していく歩みと、新たな学びへ向けた歩みの双方が、今確かに進んでいるのを感じる。フローニンゲン：2018/8/21（火）08:47

No.1250: An Autumn Leap

Since I was born in autumn, I assume that this season will bring a leap to me. I may experience a developmental leap this autumn. Groningen, 16:55, Friday, 9/21/2018

3014. 尊敬する美容師の友人メルヴィン

時刻は午後の八時半を迎えた。ここ最近は日が暮れるのが早くなり、秋の訪れを感じさせる。ただし今のこの時間帯はまだ西の空に夕日が見える。完全に日が暮れるのは九時半あたりだ。

今日は午後に行きつけの美容院に行ってきた。少しばかりさっぱりとしてから今週末から始まる北欧旅行に出かけたいと思った。

いつもの通り、かかりつけのメルヴィンに髪を切ってもらった。

美容院のドアの前に到着し、窓の外から中を眺めると、人がほとんどいないことに気づいた。ドアを開け、中に入ってみると、メルヴィンしかいないようだった。どうやら他の美容師たちは休暇に入っており、お客も軒並み夏期休暇に入っているとメルヴィンが述べた。いつものように、会ってすぐに握手をし、お互いの近況を話し合うことにした。

私はすぐに、メルヴィンの新しい店の準備について尋ねた。メルヴィンは今の美容院から近いが、より街の中心部に近い場所に新しい店を構えることになっている。ちょうどオープンは11月からとのことであり、今は準備の最終段階に入っているそうだ。必要な備品を仕入れ、内装を変えていくことを残りの期間で行っていくらしい。今回メルヴィンに髪を切ってもらうための予約をした際に、土日月と三日間スケジュールが抜けていたのは、どうやらその期間に新しい店の準備をしているからのようだ。

新しい店は、ちょうど行きつけのチーズ屋からもう少しマルティニ教会側に向かって歩いたところにある。これまで様々な美容師に髪を切ってもらってきたが、メルヴィンが最も気の合う美容師であるため、新しい店がオープンしたらそこに通うようにしたい。

今日もメルヴィンとは様々な話題について話をした。北欧旅行の話や呼吸と瞑想の話など多岐にわたる。中でも印象に残っているのは、何を意識して普段髪を切っているのかとメルヴィンに質問したところ、大変興味深い回答が返ってきた。メルヴィンは私の髪を切る手を止め、散髪のプロセスで考えていること、感じていること、イメージしていることをあれこれと語ってくれた。メルヴィンと私は身体意識への関心や霊性への関心などが共通しており、メルヴィンは毎朝瞑想をし、昼食後にも瞑想をしてから午後のお客の髪の毛を切るらしい。

私が非常に面白いと思ったのは、お客が椅子に腰掛け、そこから髪を切る前に、完成型のイメージを即座に描き、そこからは彫刻を彫るような感覚で完成型のイメージに近づけていくとのことであった。基本的にメルヴィンとは絶えず何かを話しているのだが、確かに時折、一瞬だがメルヴィンが黙る時があり、その際には最初に描いた完成型のイメージと現在の姿とのズレを確認しているそうだ。

私:「それはもはやアートの世界だね」

メルヴィン:「そうかもしれないね。そう言ってもらえて嬉しいよ」

メルヴィンは本当に芸術家のように髪を切るなと感心してしまう。そこから話が進み、今度はメルヴィンの客のうち20%が外国人だという話になった。

メルヴィン:「先週末に新しい店の前で写真を撮っていたら、一人のホームレスを見かけたんだ」

私:「ホームレス？」

メルヴィン:「そう、話を聞くと、シリアからオランダに来たらしく、最初の一年は仕事があったみたいなんだけど、どうやら職を失ってしまったらしいんだ」

私:「そういえばシリアから多くの人がヨーロッパに流れ込んできているよね」

メルヴィン:「うん、でね、彼の髪を見ると、もうとんでもない長さになってるんだ。どうやらもう一年以上も髪を切ってないらしい。そこで来週の月曜日に彼の髪を切ってあげることにしたんだ。きっと面白い話を彼から聞けるよ」

私:「それはすごいね。でも彼はホームレスなんだよね？」

メルヴィン:「うん、そうさ。お金なんて受け取らないよ。無料で髪を切ってあげて、彼からシリアの面白い話を聞くんだ」

私:「メルヴィンの心の広さと暖かさは本当に尊敬するよ。きっと彼から面白い話を聞けそうだね」

メルヴィン:「そう、この仕事をしていて一番楽しいのは、椅子に座ったお客さんから色々な話を聞くことなのさ。ヨウヘイからもいつも日本について面白い話を聞かせてもらっているよ。この椅子がね、世界への扉になるんだ」

メルヴィンは目を輝かせてそのように述べていた。今自分が座っている椅子が世界への扉になり、そこに腰掛ける人間との対話が新たな世界を開いていく。何を隠そう、私の後ろに立っていつも髪を切ってくれているメルヴィンこそが、私の世界を常に新たに開いているのだと改めて思う。ホームレスのシリア人を何のためらいもなく美容院に嬉しそうに呼んだメルヴィンの顔が思い浮かぶ。

メルヴィンほど心が広く深い男とこれまで出会ったことがないかもしれない。いつも溢れんばかりのエネルギーを持つメルヴィンと出会えたことは、フローニンゲンで得られた宝物のような出会いだったと言えるかもしれない。フローニンゲン:2018/8/21(火)20:55

3015.「兄貴の分まで生きるんだ」

今日の午後に美容院に行き、かかりつけの美容師のメルヴィンとの対話をまた思い返している。こうした人間がこの世界にいるというだけで、私の中で生きる希望が湧いてくる。

人はメルヴィンのような心を育んでいくことが可能なのだと改めて知る。正しい教育と導きがあれば、人はメルヴィンのように人格者になれるのだ。

美容院を後にして自宅に向かっている時、私は自分の心の狭さについて考えていた。およそ一ヶ月半に一度メルヴィンと話をすることから、いかに多くのことを学ばせてもらっているか。とりわけ今日は彼から大きな感銘を受けた。先ほどの日記で書いていたように、路上にいるホームレスと打ち解け、無料で髪を切るという申し出を普通の人間ができるだろうか。

「きっと彼から面白い話を聞けるよ。話をすればするほど、彼は人が良さそうで、面白いことを教えてくれるにちがいない」とメルヴィンは子供のように目を輝かせて述べていた。

メルヴィン:「人生はいろいろなことがあるけど、僕はこの人生を最大限に楽しむよ。ヨウヘイもそうだろう？」

私:「そうだね、僕もそのように生きてるよ」

メルヴィン:「兄貴がユーゴスラビアの戦争から帰ってきて、13年間ほど戦争の後遺症で苦しんでいた話をさっきしてたでしょ？」

私:「うん」

メルヴィン:「あれはPTSD（心的外傷後ストレス障害）と呼ばれるものだったんだ。戦争から戻ってきて13年経ったある日、兄貴は嬉しそうに旅行に出かけたことがあってね。だけど、旅行から戻ってきてすぐに兄貴は自殺したんだ。その時はその理由が全くわからなかったんだよ。自殺した兄貴を僕は今でも尊敬している。彼が戦争から帰ってきてどれだけ精神的に苦しかったかを知ってるんだ。彼が決断した行動の意味について、自殺後すぐに自分なりに考えてみたんだ。でも僕の父は兄貴の死と向き合うことが難しかったみたいだから、一度ゆっくり話し合おうと持ちかけたんだ」

私:「・・・・」

メルヴィン:「最初は兄貴の死と向き合うことをためらっていた父も、徐々に色々なことを話し始めるようになってね。そこからは何かが堰を切ったように、兄貴の思い出をあれこれと話してね。全て話したことによって父もなんとか兄貴の死とうまく向き合うことができたみたいなんだよ。話すことの力は偉大だね」

私:「本当にそうだね」

メルヴィン:「仮に死後の世界があったらね、そこで兄貴とまた会いたいと思ってる。兄貴に会って伝えたいことがあるんだ」

私:「お兄さんに何を伝えたいの？」

メルヴィン:「兄貴がいなくなってから自分が見た世界の全てを伝えたいのさ。自分が経験してきた楽しいことや面白かったことのあれこれを兄に共有したいんだ。死後の世界で兄貴に会って、楽しい話をたくさんしてあげられるように、兄貴の分まで僕は毎日を楽しく本気で生きてるんだ」

気がつくと私は、オランダ風のレンガ造りの家々が立ち並ぶ通りにいた。空を見上げると、先ほどまでは曇っていた空が晴れ、太陽が顔を覗かせていた。太陽の優しい光が地上に降り注いでいた。

メルヴィンのお兄さんが自ら命を絶ったことを今日はじめて知った。メルヴィンからいつも溢れる生命力は、近しい人の死と向き合うことによって生まれたものなのかもしれない。もしくはメルヴィンの言うように、お兄さんの魂がメルヴィンの魂に宿り、二人の人間の生命がこの世界に顕現しているからなのかもしれない。

「人生には色々なことがあるけど、兄貴の分まで生きて、たくさん面白い話を兄貴にしてやるんだ。きっと兄貴もそれを楽しみにしてると思うよ」

メルヴィンの言葉が自分の心の中にこだまし続けている。いや、その言葉は自分の魂を震わせている。フローニンゲン:2018/8/21(火)21:24

3016. 憤怒と落胆の夢

今朝は六時過ぎに起床し、六時半を少し回ったあたりで一日の活動を始めた。六時過ぎに起床した時は、すでに夜が明けているようであった。秋に近づき始めたとはいえ、まだ日の出の時間は早い。今日は少しばかり暖かくなるようだが、明後日以降からはついに最高気温が20度を下回る日が続く。北欧旅行に出かける土曜日は16度ほどになるとのことだ。気温が下がれば下がるほど、秋の

様相を呈してくる。これから新たな季節が始まり、自分の人生もまた新たなフェーズに向かっていることを静かに感じている。

今朝方、印象的な夢を見ていた。覚えているのは一つのシーンだけだがそれを書き留めておく。

夢の中で私は、自然の豊かな場所にある旅館で開催される学会に参加していた。それは発達心理学に関するものだった。

旅館の和室に何人かの人たちが集まり、これから始まるセッションを楽しみに待っていた。日本の最難関大学を卒業し、その後欧米の名門校に留学し、現在は日本を代表する大学で教鞭をとっている女性の教授がレクチャーをすることになっていた。その場にいた皆は一様にその教授のレクチャーに大きな期待を寄せているようだった。レクチャーが和やかに始まり、その女性教授は会場にいる人から質問を受け付け始めた。

すると、その場にいたごく少数の人だけが質問をし始めた。それらの質問に対して淡々と回答を終えた女性教授は、まだ質問をしていない人に対して意見を求め始めた。その場にいた人たちは一様に若い研究者であり、中には大学院生や学部生も混じっていた。おとなしそうな男子学生が意見を求められ、一瞬躊躇しながらも、面白い質問をその教授に投げかけた。

男子学生:「先生の説明の前提は、そのアセスメント結果が信頼に足るものであるということを前提にしていますよね。そのアセスメント結果が信頼に足ると言えるのはどのような理由からでしょうか？」

女性教授:「ええ、なぜかというと・・・このアセスメントを開発した会社が業界ナンバーワンだからです。ナンバーワンの会社が作ったアセスメントなので信頼に足ると思うんです。そうじゃないですか？」

男子学生:「は、はい・・・」

私はその女性教授の回答を聞いて、何て腑抜けた回答なのかと憤怒の念を覚えた。アセスメント結果が信頼に足るかどうかは、そのアセスメントを開発した会社が業界ナンバーワンかどうかとはほと

んど関係なく、心理統計の概念で言えば種々の信頼性と妥当性が担保されているかどうかに依存するというのは基本的な知識ではないだろうか、と怒りの念を抑えながら思っていた。

男子学生の次に、女子学生が意見を求められた。

女子学生:「ええっと、そのグラフで示されている発達段階の分布はどのように算出されたものなのですか？」

女性教授:「私もそれを知りたいんです(笑)もちろんきちんとしたアセスメントによってなんだけど、どのような観点やプロセスでアセスメントをしているのかは私も関心があります」

その回答を聞いた時、憤怒の念は消え、もはや諦めの感情が私を包んでいた。日本や欧米の名門大学を卒業し、日本を代表する大学で教授になったとしても、その程度かと大きな落胆をした。だが冷静になって考えてみれば、大学教授などというのは所詮その程度だろうと思った。そのような思いに至った時、目を覚ました。

目を開けると、辺りはまだ薄暗く、起床するには少しばかり早いと思ってそこからまた数十分ほど眠ることにした。フローニンゲン:2018/8/22(水)07:15

No.1251: The Ocean of Light

Although the outside world was completely dark, I had a feeling as if I dived in the ocean of light and were swimming in it. Groningen, 20:40, Friday, 9/21/2018

3017. 明日のGRE試験に向けて

昨夜はかかりつけの美容師のメルヴィンとの対話について少しばかり日記に書き留めていたように思う。メルヴィンに髪を切ってもらって一夜が明けたが、やはり彼の人格を敬う気持ちが強く残っている。

メルヴィンにはいつもカットとシャンプーをお願いしており、昨日ふと、メルヴィンがシャンプー代の金額を含めていないことに気づいた。

私:「あれっ、メルヴィン、シャンプー代が入ってないよ」

メルヴィン:「いいっていいって、お金はそんなにいらないよ」

慣習的な人の観点からすれば、それはメルヴィンの太っ腹な特性を示していると捉えるだろうし、合理的な経営者の観点からすれば、杜撰な売上管理につながるのではないかと心配するかもしれない。合理性を超えた人の観点からすれば、この仕事がメルヴィンにとっての天職であり、小さな金額を優先するよりも人との触れ合いを大切にするのはメルヴィンの魂の特徴の表れと見るかもしれない。

いずれにせよ、メルヴィンにはいつもお世話になっているため、メルヴィンの新しい店がオープンしたら、何か祝いの品を持っていこうと思う。日本好きのメルヴィンには、先日行きつけのチーズ屋で購入した日本のせんべいを彷彿とさせるお菓子と、自宅に飾ってあるダルマをメルヴィンに譲り渡そうかと考えている。人との縁を大切にするメルヴィンであるから、新しい店がオープンした後も色々な人が店にやってくるように、縁結びの品を渡してもいいかもしれない。そのようなことを昨夜就寝前に考えていた。

今朝方の夢について先ほど書き留めていたように、それは権威に関するものだった。そういえば昨日の日記には、シュタイナー教育における権威との向き合い方について書き留めていたように思う。二日連続して、「権威」というものがテーマとして浮上している。ここでふと、教育において権威という存在の意義と問題について取り扱った書籍を、昨年にフローニンゲン大学の寄付書籍コーナーで見つけ、それを持ち帰ってきたことを思い出した。まだそれを読んでいないので、北欧旅行から戻ってきたらぜひ読んでみようと思う。

明日はいよいよGRE試験の本番がある。今日は試験会場近くのホテルに前泊することにしている。昼食を摂り、ひと休憩したら自宅を出発して駅に向かいたいと思う。アムステルダムのホテルに到着するのは午後三時過ぎだろう。

今日はこれから対策問題集の最終確認を行いたい。ライティングセクションのポイントを再度読み返し、模範解答についてもう一度音読を行っておく。ここ数日間、本番を想定したコンピューター上での模擬試験でライティングの問題を何問か解いており、時間に追われる形で文書を書くことにはな

るだろうが、四年前よりは質の高い文章が書けるだろうという手応えがある。一方で読解セクションについては制限時間内には解き終わるようになったものの、対策をすればするだけ点数が下がっているような現状にある。これは不思議な現象だが、本番はもう明日であるため、本番では気持ちを落ち着けて問題を解くことに集中したい。それぐらいしかもうできることはないだろう。

難問に時間をかけすぎないことと、標準的な問題をできるだけ取りこぼしなく正解していくこと。これをとにかく心がけたい。また、語彙に関する問題ではよくある引っ掛けパターンに引っかからないようにする。とにかく問題文を冷静に読むことが大事だ。

読解問題については、一つの文章につき問題が1問しかないことがスクリーン上から即座に分かれば、まずは設問文を読み、何が問われているのかを確認し、文章を読む際にはその設問に解答するための情報を集めるようにする。一方、一つの文章に対して複数の問いがある場合は、先に全ての文章を読んだほうがいい。このあたりはTOEFLの文章読解とは異なる点であり、TOEFLにおいては問いごとに文章を読み進めていけば良いのだが、GREにおいてはそうすると問題が全く解けないことが多々ある。

そうした点を考慮して、スクリーン上に表示される問題数に応じて文章の読み方を変えていく必要がある。この点についてはもう一度、ホテルに到着してからETSのウェブサイト上の模擬試験を通じて感覚を養っておきたい。

明日の午前中から昼どきまで試験があり、それが終われば大きな解放感を味わうことになるだろう。そこからの日々の探究活動及び創造活動、そして北欧旅行がとても楽しみだ。フローニンゲン：2018/8/22（水）07:47

No.1252: A Cold Summer Day

It seems that temperature in Groningen will be lower and lower from tomorrow. Feeling the chilliness of early morning, I was remembering a cold summer day. Groningen, 07:51, Saturday, 9/22/2018

3018. アムステルダムに向かう列車から

今、アムステルダムに向かう列車の中にいる。ちょうど中間駅のズヴォレに到着したようだ。これからあと一時間でユトレヒトに到着し、そこで列車の乗り換えをする。アムステルダムのホテルに到着するのは午後四時前になるだろう。

今日のフローニンゲンは暖かく、駅まで歩いていると少し汗ばむほどであった。今夜はアムステルダムに一泊し、明日のGREの試験が終わり次第フローニンゲンに戻る。フローニンゲンに戻って二日後には、今度は北欧旅行に出かけて行く。数日間の間にオランダの南北を何度か行き来することになる。

フローニンゲンからズヴォレに到着するまでの間、列車の車窓から長閑な景色が見えた。また、午後の太陽の陽気に誘われて、少しばかり昼寝をしていた。昼寝を挟み、持参した単語集の最終確認を行っていた。今日はホテルに到着するまでに残りのページを確認し、そこからはもう単語集を開かないようにする。直前に無理に頭に単語を詰め込もうとしても逆効果だ。

GREのように時間に追われる中で頭をフル回転させるような試験の前日は、程よい休息を取り、実際の試験で脳がうまく働くように調整を行っていく必要があるだろう。アムステルダムのホテルに到着したら部屋に荷物を置き、散歩がてら近くのサッカースタジアムの外観を見学に行く。偶然ながら、ホテルの近くにアムステルダムを代表するサッカーチームのアヤックスのホームスタジアムがあることに今朝気付いた。ちょうど夕食を購入しようと思っていたスーパーの近所にスタジアムがあるため、少しばかり外側の様子を眺めたい。

夕食を購入し、ホテルに戻ってきたら、無理のない範囲でコンピューター上でGRE試験の最終的な対策を行いたい。これは完全に最終調整であり、明日の朝にも同様のことを数十分ほど行おうと思うが、特に読解セクションの問題を軽く解いて感覚を慣らしておこうと思う。

明日の九時から始まる試験は、まずライティングセクションから始まる。ライティングのセクションの問題を解く際に、TOEFLのライティング試験や普段の英文執筆とは少し異なる点に注意が必要だ。それは何かというと、一見読みにくいようなあえて複雑な構文を文章の中に幾つか盛り込んでおくということである。普段はとにかく簡潔な英文を書くように心がけているが、GREのライティングセクショ

ンの評価項目の中に構文の多様性と複雑性が入っているため、それを意識して文章を書いていく。感覚として、三行が一つの文章であるかのようなものを二、三交えて文章を書く。最初の設問は、ある二つの意見に対してどちらに賛同するかについて自分の意見を書くものであり、極端に片方の意見を採用するのではなく、両方の立場に言及しながら片方の意見を採用するようにする。

ここでも評価項目として、観点の複雑性が挙げられているため、単純に片方の立場を採用することなしに、両方の立場を考慮して自らの主張を展開していく。その他に意識することとしては、各段落ごとのつながりと文章全体の流れを意識する。各段落がバラバラなものになるのを防ぎ、それぞれの段落が自分の大きな主張をサポートするようにし、各段落が一つの全体の部分であることが明確にわかるように文章を書いていく。各段落のつながりを明確にするような語彙を冒頭に置くという工夫をすると良いだろう。

そうしたことを意識しながらライティングセクションの問題を解き、1分間の休憩を挟んで読解セクションに移る。この1分間の休息はしっかりと脳を休め、呼吸を整えるようにしたい。各セクションごとに1分間の休憩があり、三つのセクションを終えたところで一度10分間の休憩がある。この休憩でバナナなどの軽食を食べて脳に栄養を補給することを忘れずに行い、とにかく1分間の休憩はゆっくりとした呼吸をしながら時間を過ごす。それがその後のセクションの問題を解く際の集中力を高めてくれるだろう。ズヴォレ：2018/8/22（水）14:35

No.1253: A Meditative State of Consciousness

Listening to the music that I previously composed, I was drawing a picture in a meditative state of consciousness. A new day replete with music and paintings began. Groningen, 08:04, Saturday, 9/22/2018

3019. アムステルダムでの散歩を終えて

穏やかな夕日が空に浮かんでいる。時刻は午後の六時を回った。今、私はアムステルダムのホテルの自室にいる。午後四時にホテルに到着し、荷物を降ろして散歩に出かけた。夕食を買いに行くついでに、アムステルダムを代表するサッカーチームであるアヤックスのホームスタジアムまで歩いてみた。宿泊先のホテルからスタジアムまでの道のりは散歩をするには最適であった。自転車が走

る道と歩道とがきちんと分けられており、どちらの道も綺麗に整備されていた。私と同じように、その時間帯には何人もの人が散歩を楽しんでいた。

宿泊先のホテルの周りは高層ビルが多く、オフィス街なのだが、人気があまりない。ちょうど今は夏期休暇の時期であり、勤め人は休みを取っているのだろうと思われた。今日は平日であるから、そのように考えてみなければ、この人気のなさを説明することは難しい。人気が少ないおかげもあり、とても落ち着いた雰囲気が辺りを漂っている。同時に、突如として人類の数が減ってしまったかのような、近未来都市の様子も醸し出している気もする。いずれにせよ、サッカースタジアムの外観を見学し、散歩をしたことによって良い気分転換ができた。

フローニンゲンの駅からホテルの最寄り駅までの間に単語集の最後の確認を済ますことができた。単語に関しては、もうこれ以上学習しないようにする。

明日のGRE試験ではこの一ヶ月間ほど積み上げてきた学習の成果を発揮することができたらと思う。今日はこれから、ETSのウェブサイト上にある模擬試験の読解セクションの問題を復習したいと思う。過去に解いた問題のうち、間違えた問題について確認しておく。再度問題を真剣に解こうとすると脳に過度な負担がかかるので、間違えた問題を軽く読みながら、どのような点を間違えたのかを確認することに留める。同じようなことを明日の朝にもう一度行う。これからその最終確認をし、それを終えたら少しくつろぎ、今日は早めに就寝しようと思う。ホテルに前泊したおかげあり、明日の朝は時間に余裕を持つことができる。

すでに先ほど試験会場であるプロメトリックセンターの場所を確認してきた。やはりプロメトリックセンターは綺麗な建物の中にあることがほとんどであり、今年またTOEFLを受けることがあれば、このプロメトリックセンターで受験したいと思う。その際にもまたホテルに前泊したいと思う。オランダは、TOEFLにせよ、GREにせよ、試験会場が南にしかなく、フローニンゲンのような北の都市に住む者にとっては不便である。

私はほぼ隔年でTOEFLを受験しているが、昨年TOEFLを受けようと思った時にはドイツのドルトムントの試験会場の方が近いのではないかと思ったぐらいである。ただし、TOEFLについてはGREよりも試験会場が多く、昨年は比較的近い試験会場をオランダ南部に見つけることができた。このプ

ロメトリックセンターは当然ながらTOEFLも受験できるため、今年の秋か冬にTOEFLを一度受けることがあれば、その時は是非この会場を使いたいと思う。

明日の試験に向けて、今から最終確認を行っていく。明日は、この一ヶ月間の学習の成果がきちんと発揮されることを願う。アムステルダム：2018/8/22（水）18:29

No.1254: Green Leaves

The leaves of the street trees that I can see from the window of my study are still green. It takes more time for them to turn red. Groningen, 09:04, Saturday, 9/22/2018

3020. GRE試験当日の朝に

アムステルダムのホテルにて、今日は五時半過ぎに起床した。昨日は九時過ぎに就寝したから、十分な睡眠が取れたように思う。確かに今日のGRE試験のためか、すぐには寝付けなかったが、それでも今の状態はとても良いと言える。今日の試験の開始に向けて、ここから心身をさらに整えていこうと思う。

昨日は丁寧にも、プロメトリックセンターからリマインダーの電話があった。こうしたことはこれまで一度もなかったため、丁寧な対応を嬉しく思う。

試験開始は午前九時からだが、試験の受付は八時半をめどに済ませておく必要がある。ホテルから試験会場までは歩いて数分のため、八時を過ぎてからホテルをチェックアウトしたいと思う。

今日の試験終了を持って、一ヶ月間にわたるGREの試験対策を終えることになる。試験結果がよほど悪いものでない限り、四年前の試験結果もまだ有効であるため、再受験はしないようにする。確かに、GRE試験に向けて語彙の強化に励むことは意味があるが、こうした試験に向けての勉強を続けているのは精神衛生上あまりよろしくない。基本的にGRE試験は、さらなる成長につながるようなアセスメントではない。また、読解セクションの対策は極度に脳に負荷がかかりすぎるように思うし、単語に関してもその学習にはきりがない。そうしたこともあり、今日を持ってGRE試験を受験するのは最後にする。よほど結果が悪ければもう一度受験することも考えていいが、基本的には今日で最後としたい。

試験が終了すれば、再び自分の探究活動と創造活動に思う存分打ち込むことができる。探究活動については、今はとにかくシュタイナー教育に関する書籍を読んでいきたいと思う。また、美学に関する書籍、芸術教育に関する書籍、霊性教育に関する書籍、さらには詩集を読み進めていくことが今から楽しみだ。創造活動については、作曲実践にこれまで以上に打ち込んでいきたい。

ここ最近は、作曲理論に関する書籍を全く読んでいなかったので、今日からまた少しずつ作曲理論に関する書籍にも目を通していきたい。しばらく理論書から離れていたが、その期間に作曲経験を積むことができた。そうした経験のおかげで、作曲に関する問題意識がいくつも芽生えており、それらの問題意識を持って書籍を読めば、身になることが非常に多いだろう。

本日自宅に到着するのは四時半過ぎになるだろう。帰宅後は、早速一曲ほど曲を作りたい。

明日からは、現在協働執筆中の書籍の原稿をレビューし、自分が担当しているコラムの執筆を行う。また、明日の午前中には協働プロジェクトのオンラインミーティングがあるから、それに向けての準備も進めていく。今日の試験終了後から、再び何かが動き出していくことを予感する。アムステルダム:2018/8/23(木)06:41

No.1255: A Grand Rosary

A Saturday in autumn is approaching the evening. I perceive a day as a precious particle which is a part of a grand rosary. Groningen, 16:23, Saturday, 9/22/2018